



2023年 1月15日
第111号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集 情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

1月15日号

新年を向かえ、厳しい1年がスタートしました。2023年はいったいどんな1年になるのか。私たち労働者が創り変えていくしか道はありません！

今年は関東大震災から100年の節目の年です。防災についてさまざまな角度から考える機会でもあり、情報のあり方も考えていくことも重要です。死者・行方不明者10万5千人余りと、日本の自然災害史上で最悪の惨事となった1923年の関東大震災。その後も阪神・淡路大震災や東日本大震災など日本列島は大規模な災害に見舞われています。南海トラフや日本海溝・千島海溝沿いの両巨大地震、首都圏直下地震といった災害への警戒も必要であり、振り返って過去から教訓を学び次への備えが大切です。

関東大震災の際、混乱の中で「朝鮮人が爆弾を投げた」「井戸に毒を入れた」というようなデマが広がり多くの朝鮮人が虐殺されました。2008年の国の中央防災会議の推計では、被害者は約千〜数千。加害者は、日本の官憲や市民や民間の自警団でありました。

情報化社会を生きる現代の私達は、ファクトチェック（事実かどうか確認すること）を厳格にし、誤りがあれば誤りであると堂々と訴え、訂正しなければなりません。今はSNSなどインターネットが発達しながらも情報リテラシーの高まりは不十分で、100年前と同様にデマが広がる懸念が大きくなっています。実際に新型コロナウイルス感染症が流行り出したところ、トレットペーパーがなくなるというSNSのデマによって多くの方が小売店に大行列をしたことは記憶に新しいのではないのでしょうか。

大事なのは、確かな情報を掴み取り、真実を暴き出し、本質を見抜く力を積み重ねて行く事であります。私達が黙って見過ごしてしまえば、捻じ曲がった情報として常に騙されてしまいます。

最近、北朝鮮のミサイル発射や中国の領海侵犯などが連日報道されています。それに呼応するように防衛費増額や敵基地攻撃能力の保有など国民の議論もありませんまま閣議決定により進められています。本当に日本が攻撃される危機が差し迫っているのか？もし危機が差し迫っているのであれば、それは軍備増強でしか回避できないのか？戦争になった時、誰が得をし、誰が犠牲になるのか？決して私達は騙されたい！権力を私達が日々監視し、間違っていることは間違っていると、言うべきことははっきり言って行かなければ何も変わらない世の中になっってしまう。

同じ過ちを繰り返さない為にも、厳しい1年となりますが、勇気を持って私たち労働者が切り開いていく年にして行こう！（T・O）

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。